

2015/3/2-3/8 デボーションガイド 「ユースマナ」 詩篇 27:4 私は一つのことを主に願った。 私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。	2015/3/2(月) レビ記 26:27-46 昨日の箇所続き、イスラエルの民に対して警告が語られている。 神様に従わない道の悲惨な行く末が語られているけど、イスラエルがへりくだって悔い改め、神様がイスラエルと結ばれた契約を思い起こされると書かれてあるね(41,42)。 イスラエルの歴史はここに語られている通りに動いている。イスラエルは散らされるが、そこから世界宣教へと転じ、最終的にイスラエルは神様に立ち返ることが聖書に書かれてある(ローマ 11:25～)。 神様の約束は決して変わることがないことを感謝しよう。自分の人生においても神様の約束が成ることを確信しよう！ ・神様があなたに語られたことを思い出そう。そしてそのことを思い返して祈ろう。	2015/3/3(火) レビ記 27:1-15 誓願とは「神様に対する誓い」です。これは強制されるものではなく、神様に対する愛によって自発的にすることです！！それには責任があり神に対する誓いだからこそ軽々しくするのではなく遅れず必ず果たすように言われています。(申命記 23章 21) しかし反対に私たちが誓いを誠実に果たすならハンナが神様に対する誓いを果たし、サムエルを捧げ、サムエルが国のリーダーとして素晴らしい働きをしたように、神様はそこに神様の計画をおき奇跡的なことをして下さいます。 あなたは聖書を読みます。もっと祈ります。と言いつつ後まわしにしていますか？あなたが誠実に誓いを果たす時に神様の計画が動き奇跡が起こります！！	2015/3/4(水) レビ記 27:16-34 今日でレビ記の通読が終わります。どうだったかな？ レビ記は難しかったと思うけど、神様がどんな方がわかる箇所がたくさんあったよね。 次にレビ記を読むときには、今回よりももっといろんなことがわかったり、いろんなことを受け取れるといいね！ ・今日の範囲だけでなくでもいいので、レビ記の中で心に残った箇所、神様からのメッセージとして受け取った箇所がなかったか、考えてみよう！
2015/3/5(木) I ペテロ 1:1-12 ペテロの第一の手紙は、アジア各地に散らばるキリスト者にあててかかれています。ペテロがこの手紙を書いた理由は、キリスト者に迫害の危険が身近に迫っていたこと、そしてそんなキリスト者たちに勇気と希望を与えるためです。 あなたの目の前にある信仰の試練とは何ですか？その試練のために、仲間と祈ろう。試練が無いなら、それはある意味、「金よりも尊く」「イエス・キリストの現れのとくに賞賛と栄光と栄誉となる」ものが無いことになります。自分の向きあうべき問題は何ですか？今日向きあうべき問題を、神様がどのように見ているのか、祈り、受けとって出て行こう！	2015/3/6(金) I ペテロ 1:13-25 私たち人はイエス様の現れを待ち望み、そこに向かって生きています。その大きな恵みのとけのために、ペテロは 4 つの生き方を示します。 ①本気になって、忘れないで、いつも準備万端整えて待ち望む。②私たちを選び召し出してくださった聖なる神にならって、聖なる者とされながら待ち望む。③キリストを世に遣わし、人をむなししい生き方から希望へと贖い出してくださった神を恐れ敬い待ち望む。④神からの真実の愛によって、互いに心から熱く愛し合い待ち望む。 イエス様がいつ現れても良いように、ペテロの 4 つのポイントをいつも心に留めていよう。今日もイエス様の現れを待ち望み、与えられた今を生きよう！	2015/3/7(土) I ペテロ 2:1-10 皆は今いろんなところで「成長期」って言われる年だね！ 身体能力もそうだし、学力も、心の中もいろんな変化があると思う。成長することで新しいものを得るし、逆に成長しなかったら大変なことってあるよね。 実は神様と私たちの関係も、成長していくことができるんだ。 私たちはイエス様の十字架によって救われて、神様の愛と憐れみの中を今も生きている。2 節、9 節をもう一度読もう！ ・神様がきみを神様のものとして選んで、救いを与えたのは何のためだろう？ ・きみがイエス様と出会ってから今まで、成長したのはどんなこと？ ・これからクリスチャンとして成長したいのはどんなこと？そのために何をきみはしますか？ 神様は今日も生きてともにおられる！祈ろう！	2015/3/8(日) I ペテロ 2:11-25 どんなに苦しく、辛い状況に置かれても、それを耐え忍び生き方をイエス様がすでに示しています。イエス様は罪を犯したことがなく、真実な方であるのに当時の人々からののしられ、苦しめられたが、口答えも、反抗もされず、正しいさばきをなさる父なる神にすべてをおゆだねになった。また、人の罪の責任を進んで背負い、十字架で死なれた。イエス様は決して報復しなかった。ここに異教社会に生きるクリスチャンへの最高の模範がある。 私たちはキリストにならって、罪におぼれた生活ではなく、神の義をこの世で表していく者となろう！ 目標を失って迷ったり、肉の欲に惑わされるのではなく、たましいを養い、また見張っていてくれるイエス様のもとで生きよう！

